

“Trio Gone”

伊藤志宏^{piano}
コモブチキイチロウ^{bass}
斉藤良^{drums}

※マスクの着用を必ずお願いいたします。
※ご入場の際、備え付け、又はご持参の消毒液にて手を消毒して下さい。

2022 05月01日(日)

開場 16:30

開演 17:00

(2ステージ入替無)(1drink=600~)

MC=3700+2drinks order

CAFE **BEULMANS**

世田谷区成城6-16-5 カサローザ成城 2F

03-3484-0047

mail: info.cafebeulmans@gmail.com

メールでご予約の場合、
必ず当日ご連絡の取れる電話番号を
ご記載下さい。



コモブチキイチロウ

1966年東京生まれ。香港にて幼少期を過ごす。音楽好きの家庭に育ち、15歳でジョーバーベースのルイス・ジョンソンの演奏に感動しベースを始める。当時は母のクラシックギターを4本にして叩いていた。川端民生氏、ジョージ大塚氏に師事。ピットインなどのジャズライブハウスを中心にセッション活動を開始。90年代中頃からブラジル音楽の豊かさに吸い込まれるように傾倒するようになる。ボサノヴァ黄金期の一人、ロベルト・メネスカルとの出会いを機に1997年に開催されたボサノヴァ生誕40周年コンサート「Gets Bosa Nova」に多くのブラジルアーティストと共に出演。その後ワンダ・サー、カルロス・リラ、ドリ・カイミ、ミュシャ、フィロ・マシャードなどの来日公演をサポートする。サンバの力強いグループを信条に掲げ、ジャズ、フュージョン、ラテン、R&B、ソウル、ポップス、フラメンコなど様々なバンドでも活動を展開している。現在渡辺貞夫クインテット、渡辺真知子バンド、中路英明オバタラ・セグンドにレギュラーメンバーとして参加。オリジナルリーダーバンドの活動としてヴォーカルのCHAKAとデュオユニット【コチちゃん】を結成。歌とベースだけのシンプルな世界に挑戦している。

伊藤志宏

ピアニスト、ボタンアコーディオニスト、作曲家、アレンジャー、プロデューサー五歳の頃より祖父の岸川基彦にクラシックピアノを師事する。14歳のとき東京交響楽団とベートーベンピアノコンチェルト三番を共演好評を博す。慶応義塾経済学部入学後セロニアスモンクのソロピアノのCDを聞いて「ジャズもいいかも」と思い独学で始め音楽理論も同時に一人で学ぶ。23歳くらいからいつの間にかライブを始めるようになりプロ活動を開始特にドラム、ベースのいない変則形態における演奏には定評がある。今現在、ソロピアノ、ピアノトリオ、多様な編成での独自の活動を模索中。また沢山の歌手から伴奏者、アレンジャーとして信頼を寄せられる。

＜リーダー作＞
2012年10月、自身の初リーダー、プロデュース作品「ladies & pianoman」を発表、ウィリアムス浩子、畠山美由紀、青木カレン、一青窈、たなかりかななど10人のボーカルを集め、ジャズスタンダードを独自の解釈で表現。2014年、「ヴィジオネール」と3 cello varistion「タベストリア」をリリース。

斉藤良

1978年広島市出身。音楽家の父と画家の母の間に生まれる。7歳で地元の神楽団に入団し、中学進学まで和太鼓や手打鐘を担当する。12歳でドラムに転向し、独学でジャズドラムを学ぶ。高校に通う傍ら、16歳で広島市内のジャズクラブにて清水末寿グループのドラマーとしてプロデビュー。その頃出会った同じく広島出身のピアニスト、丈青(Soil & Pimp Sessions)と組んだ「Higher Freak Style」というバンドでSONYのオーディションに出場。見事グランプリを獲得する。19歳で上京。その後、鈴木勲、本田竹広、池田芳夫、高橋知己、加藤真一などのグループに参加。2010年、初のリーダーバンド「秘宝感」を結成し、同年1stアルバムリリース。新宿ピットインの歴史に爪痕を残す衝撃的な活動を展開。その後はジャズ、フリージャズ、ブラジル音楽を中心に、小野リサ、Saigenji、orange peko、tryphonic、松下美千代Trio、DOMADORAなど、国内外にて多岐に渡る音楽活動を繰り広げる。また、自己のリーダーユニット「秘宝感」の10年ぶりの2ndアルバム「TIME CUPSUL」が時を超えて2020.8.8.に配信リリース。